

あさお 慶一郎

Keiichirou

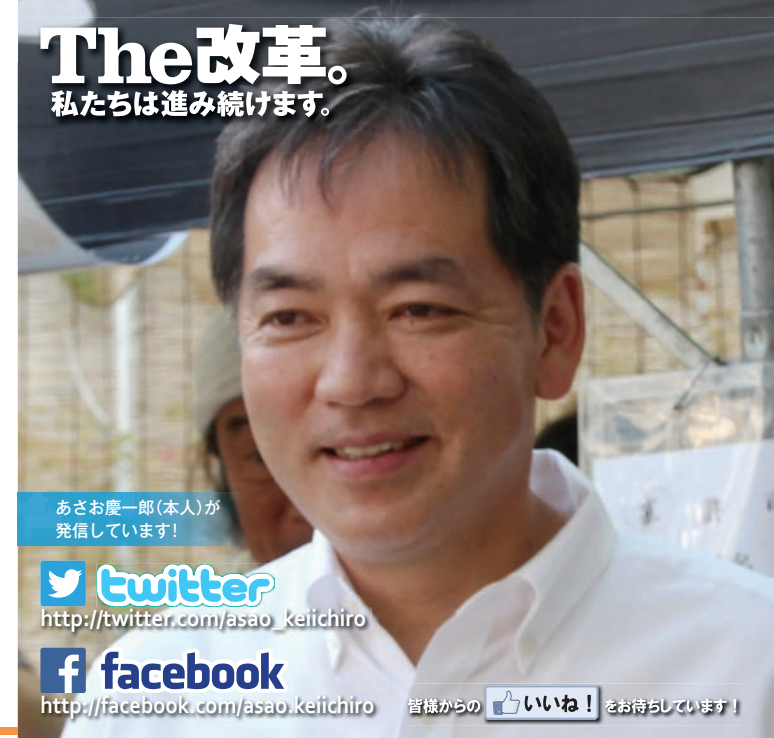
活動
レポート

慶一郎

2018年7月号 No.279

The改革。

私たちは進み続けます。



あさお慶一郎(本人)が
発信しています!

twitter
http://twitter.com/asao_keiichiro

facebook
<http://facebook.com/asao.keiichiro>

皆様からの いいね! をお待ちしております!

profile

昭和39年2月11日生まれ
栄光学園高校、東京大学法学部卒業
日本興業銀行出身、証券アナリスト
米スタンフォード大学経営大学院 (MBA) 修了
玉川大学 講師

平成10年 参議院議員選挙初当選
平成16年 参議院議員選挙当選(2期目)
平成21年 衆議院議員選挙初当選
平成24年 衆議院議員選挙当選(2期目)
平成26年 衆議院議員選挙当選(3期目)

今月の提言

再び人が資源とされる時代に!

三つ過剰の時代

人は石垣——。と語ったのは武田信玄ですが、近代以降も日本では「人材以外に資源なし」という言葉が当たり前に使われてきました。

これが死語になったのはバブル崩壊後、三つの過剰と言われた時代です。三つの過剰の「三つ」とは、1999年版『経済白書』で指摘された雇用、設備、債務のことです。これ以来、雇用が景気の足を引っ張っているとの認識が企業に定着し、その認識は2005年版『経済白書』で「三つの過剰がほぼ解消された」と指摘されても変わることはありませんでした。

再び人が資源の時代に

しかし、時代はめぐります。有効求人倍率が全国で1を大きく超え、正社員の有効求人倍率も1.08となると人材は再び「資源」と認識される時代を迎えたようです。つまり、人を大切にしなければ成り立たない状況が生まれたということです。

企業の新陳代謝促進に 最低賃金引き上げを

先月号の活動レポートでは、最低賃金の大幅な引き上げを行い、それを生産性向上に結び付けるべきだとの提言を行いました。それに対し、賛否のご意見を多数頂きました。反論で最も多かったのは、「そんなことをしたら企業が破綻してしまう」というものでした。私の説明不足でした。もつとはつきり言います。それで破綻する企業は破綻すべきだということです。事業の統廃合を促進し、過当競争

体質から脱却できれば、適正な価格でモノやサービスが販売される環境が生まれます。これが、生産性向上につながるのです。雇用調整で延命を試みるのか、一気に再生を促進する



新陳代謝を選択するのか、長期的に見てどちらの未来が明るいでしょうか。

日本だけの問題であればいざ知らず、もはやIT技術では日本を凌駕する勢いの中国は、「ゾンビ企業退治」の名の下、激しい新陳代謝を繰り返し急進してきました。

ただ企業破綻が失業率向上に直結する時代であれば、新陳代謝も簡単ではありません。しかし、これだけ雇用が逼迫する環境であれば問題ありません。好機到来です。

不完全な労働市場

労働市場は必ずしも完全な競争市場ではありません。人手不足だからといって、日本人は簡単に給与の高い企業に転職はしません。だからこそ最低賃金を引き上げ、社会が人を大切にすることを打ち出す必要があるのです。労働力に対する認識を変化させることで企業に新陳代謝を促し生産性を引き上げること。それこそ日本の未来です。

前衆議院議員 浅尾慶一郎

浅尾慶一郎事務所

〒247-0056 鎌倉市大船1-23-11 松岡大船ビル5F
TEL. 0467-47-5682 / FAX. 0467-47-5626
ホームページ <http://www.asao.net>
Eメール info@asao.net

右のQRコードから「あさお慶一郎の今月の対談」をご覧ください。



特別賛助会員募集・各種イベント申込

「あさお慶一郎君を応援する会」では浅尾慶一郎の政治活動を支援する一助として「特別賛助会員」(5,000円/年)の募集を行っております。ご入会された方には、大船在住の『鎌倉大船イトウデザイン』代表伊藤ヨシノリさんがデザインを手掛けた、平成30年の干支である「戌」の「オリジナルピンバッジ」をお送りさせていただきます。



お申し込み記入欄

イベント	<input type="checkbox"/> 聞いておくべき社会保険の話 (7/27)
	<input type="checkbox"/> 特別賛助会員 ※お申込みをされる項目に✓をしてください
お名前	〒 _____
ご住所	_____
生年月日	_____年 _____月 _____日
電話	_____
携帯電話	_____
E-mail	_____

お申し込みFAX番号 0467-47-5626

各種入会・詳細に関しましては、「浅尾慶一郎事務所」ホームページ
「http://asao.net/asaokai/」又はTEL.0467-47-5682までご連絡ください。

今月の 浅尾慶一郎 × 富坂 聡

-Interview- 対談

今回は、拓殖大学 海外事情研究所 教授、ジャーナリスト、富坂 聡氏をお招きして中国とアメリカの間での経済覇権を巡る状況について伺いました。

浅尾: 富坂さんは中国問題の専門家ですらっしゃいますね。昨今はトランプ政権のアメリカと中国の間の経済制裁が話題になっていますが、むしろ実際に衝突するのは最先端領域ではないかと？

富坂: そうですね、最先端領域では未だお互い踏み込んでいません。例えばアメリカでアマゾンの領域にアリババが入っていったらどういふ競争になるのか？電子決済の領域ではアメリカのスマホ決済は遅れています。でも進んだ中国のスマホ決済方式をアメリカは絶対に受け入れられないと思うんですが、その辺りがどうなるか。

浅尾: 中国にはFacebookもGoogleも入れていませんね。逆にアメリカにアリババは入れますか？

富坂: アリババは入れていません



この内容は「あさお慶一郎ホームページ」
http://asao.net/video/で動画でご覧いただけます。



ね。互いにこれからどうなるか。火花が散るとしたら、むしろ第3国ですね。世界的にはアマゾンが広まっていますので、アリババの需要は無いと思います。ただ逆にアリババは2022年までに全世界どこへも72時間内配送の達成を目指しています。そうするとアマゾンがそれに乗らざるを得ないこともありえます。

浅尾: そうするとFacebookペイみたいなものを第3国で、となったりする。そうなったらどちらが強いのか、というようなこともあるかもしれません。

富坂: そうですね、ドル紙幣に対する信任は強いものがあります。ただ、先進国は別として自国通貨の弱い第3国では一挙に電子マネーであるアリペイ・チャットペイでやっしまおう、となり得ます。そうするとアメリカも危機感を覚えるのでは。

浅尾: なるほど、そうですね。今日はありがとうございました。

とみ さか さとし
富坂 聡

- ▷1964年、愛知県生まれ。
- ▷拓殖大学海外事情研究所教授。ジャーナリスト。北京大学中文系中退。
- ▷『週刊ポスト』、『週刊文春』記者を経て独立。
- ▷1994年、第一回21世紀国際ノンフィクション大賞(現在の小学館ノンフィクション大賞)優秀作を『龍の『伝人』たち』で受賞。
- ▷著書には『中国の地下経済』『中国人民解放軍の内幕』(ともに文春新書)、『中国マネーの正体』(PHPビジネス新書)、『習近平と中国の終焉』(角川SSC新書)、『間違いだらけの対中国戦略』(新人物往來社)、『中国という大難』(新潮文庫)、『中国の論点』(角川Oneテーマ21)などがある。
- ▷近著として『トランプVS習近平』(角川書店)、『中国がいつまでたっても崩壊しない7つの理由』(ビジネス社)がある。

あさお慶一郎の モバイルサイト

「アイコニット」の無料アプリをご利用ください



6月から毎日新聞のニュースサイト(WEB)で「政治プレミア」が新たに開始されました。このサイトへ浅尾慶一郎がレギュラー寄稿しています。石破茂氏、岡田克也氏など多士多様な政治家の皆さんもそれぞれに寄稿するこのサイト。新しい政治・政策の議論の場の誕生に浅尾が加わります。

※是非「毎日プレミア」で検索願います。

ご案内

毎日新聞WEB「政治プレミア」で浅尾の連載が始まります！



「日本そば」専門誌の蕎麦春秋の2018年夏号に「畑に親しむ会」で地産地消を支援する浅尾慶一郎の活動が紹介されています。是非、書店にてお求めください。



活動報告

畑に親しむ会
「蕎麦春秋2018夏号」に記事掲載

日時 7月27日(金) 14時00分～15時30分
場所 横浜市 栄公会堂 1号会議室
(横浜市栄区桂町2-79-29)

会費無料

われていることについてお答えします。女性の集いによる企画ですが男性の方も、もちろん歓迎いたします。是非、お越しください。



女性の集いの皆さんの主催による新しい企画です。今回はあさお慶一郎が社会保険について、判りやすく、詳しく皆さんへ解説します。健康保険・年金問題など皆さんが困りの内容、知りたいと思

活動1

あさお慶一郎による「聞いておくべき社会保険の話」